



関西学院大学大学院 社会学研究科 21世紀 COE プログラム

2007年度 COE 連続シンポジウム

「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」

第1回

5/12

第2回

7/14

第3回

10/13

第4回

12/8

(第4回)

先端社会研究所 開設記念 (2008年4月開設)

社会調査教育への 提言と展望

—現場から語る夢と希望—

2007年12月8日(土)

14:00 ~ 18:00

東京サピアタワー 6F 会議室 602 (千代田区丸の内1-7-12)

(http://www.kwansei.ac.jp/Contents_4720_0_10_0_18.html)

JR 東京駅八重洲北口改札より徒歩2分、地下鉄東西線大手町駅 B7出口に直結。

※ ご来場の際は、3階オフィスロビー受付にてゲストカードをお受取りください。

シンポジウムの後、記念レセプションを行います。参加希望のかたは事前申込をお願いします。参加費は無料です。
sympo@kwansei.ac.jp へメールにて11月25日(日)までにお申込ください。この内容はCOE HPでもご覧いただけます。

2007年度COE連続シンポジウム「大学院における社会調査教育はどうあるべきか」では、第1回「社会調査と学際性：社会学と社会福祉学を架橋する試み」、第2回「映像と社会調査」、第3回「社会調査と言語」のタイトルのもと、若手研究者を中心として、従来からの社会調査教育への内省的かつ批判的な検討をおこなう場を設けてきた。

最終回となる第4回では、これまでのシンポジウムを通して繰り広げられた議論と問題提起を踏まえて、これからの時代に望まれる社会調査教育のあり方について議論する。

問題提起者として、日頃から大学院での教育に積極的に携わっている社会学および社会福祉学、人類学等の研究者の方々から、社会調査教育に関する具体的な提言や教育プログラムを提示してもらう。

異なる立場からの多様な問題提起を受けて、「こんな社会調査教育があれば良い」、「こんな社会調査教育を実践したい」といった、各人がこれからの社会調査教育に託す夢や理想を語り合う機会を設ける。

自由闊達な議論を通して、学術世界におけるひとつの素養として求められる「知識としての社会調査」とも、実践現場における問題解決のためだけに利用される「道具としての社会調査」とも異なる、「これからの社会調査」の可能性と課題を探究することを目指す。

登壇者：

趣旨説明 荻野 昌弘 (関西学院大学大学院 社会学研究科 教授・理論社会学)

報告者 石川 久展 (ルーテル学院大学大学院 総合人間研究科 教授・社会福祉調査)

陳 礼美 (関西学院大学大学院 社会学研究科 非常勤講師・社会政策 / 老年学)

佐藤 嘉倫 (東北大学大学院 文学研究科 教授・数理社会学)

伊藤 守 (早稲田大学大学院 教育学研究科 教授・メディア論)

大村 敬一 (大阪大学大学院 言語文化研究科 准教授・文化人類学)

司会： 武田 文 (関西学院大学 社会学部 准教授)

阿部 潔 (関西学院大学大学院 社会学研究科 教授)

コーディネータ： 内海 博文 (関西学院大学大学院 社会学研究科 COE 専任研究員)

お問い合わせ： 関西学院大学 COE 事務局 (tel 0798-54-6655)

<http://coe.kgu-jp.com/>

〒662-8501 兵庫県西宮市上ヶ原一番町 1-155